

令和7年度 インターネット上の偽・誤情報等への対策技術の開発・実証事業

**ストリーミング動画コンテンツの  
真偽検証支援ツールの開発・実証  
成果報告書 簡易版**

2026/3/19

技10\_SEARCHLIGHT株式会社

# ストリーミング動画コンテンツの真偽検証支援ツールの開発・実証

アプローチする課題・目指す姿

- ・ ストリーミング動画は、社会的・政治的な情報流通の主要なチャネルとなりつつあり、公共的な議論や有権者の意思形成にも多大な影響を及ぼしている。特に動画形式による主張・評論・告発といったコンテンツは、感情的訴求力が高く、視聴者の印象形成に大きな役割を果たしている。しかし、ストリーミング動画コンテンツは検証コストが相対的に高く、多くのユーザーが利用する情報空間の健全性確保に、真偽検証を支援するツールの開発提供が寄与する可能性がある。
- ・ ユーザベースが大きく、しかしデータへのアクセスが難しいストリーミング動画コンテンツに含まれる真偽の把握が困難なプラットフォームについて、広く対応した真偽検証支援ツールを提供。これにより、上記サービスの利用者が真偽不明の情報に早期対応・判断できる健全な情報流通環境の構築を目指す。【デバンキング対象の拡張】

技術区分 コンテンツの真偽判別支援技術、改ざん検知技術

対象とするモデル種 動画

実施体制  
(下線：技術開発主体)

SEARCHLIGHT株式会社、AIQVE ONE株式会社

## 技術開発の取組・成果

- ・ ストリーミング動画コンテンツの解析を目的とし、「動画内容の構造化」と「根拠情報の提示」を行う真偽検証支援技術を開発しました。大規模言語モデル（Gemini 3 Flash等）を活用し、動画内の主張や検証のためのエビデンスを、論拠強度を加味して収集・自動照合するシステムを構築したほか、実在しないURLを排除する出典照合の高度化も行いました。
- ・ 主要報道機関等での実証実験において、検証業務の負荷軽減と効率化に対する有効性を確認しました。
- ・ また、上記技術の広告・ブランドセーフティ領域や企業の炎上監視サービスへの応用を行いました。

## 社会実装に係る取組・成果

- ・ 「AIが真偽を断定する」のではなく人間の判断を支援するという思想に基づき、報道機関等と対話を行い検閲リスクを回避する合意形成を図りました。
- ・ また、マルチテナント対応のSaaS基盤の構築や、安全性検証（Red Teaming）を通じ、組織導入に耐えうる信頼性を確保しました。
- ・ 成果として、2度の国政選挙において主要報道機関での試験導入を果たし有効性を実証したほか、広告・ブランドセーフティ領域や企業の炎上監視サービスへとビジネス展開を進め、持続可能な社会インフラとしての基盤構築のきっかけとなりました。

## 技術開発及び社会実装にあたっての課題・展望

### 【課題】

技術面では、陰謀論など「存在しない事実」を見抜く技術の確立と、外資プラットフォームに依存しない冗長性の確保が課題です。社会実装面では、対策市場が未成熟なため持続可能なビジネスモデル構築が急務です。社会実装にあたりベーシックなニーズは確認できたものの、平時での利用定着や広範な潜在顧客への販売チャネル強化が求められています。

### 【展望・対応事項】

今後は「プロ支援から社会インフラ」を掲げ改善を進めます。技術面では、主張の論理的飛躍を可視化する「論拠強度検証」や、AIが反証を生成する「ゴーストファクトチェック」機能を実装し検証精度を向上させます。社会実装面では、広告主へアプローチしブランドセーフティ市場を開拓します。SaaS基盤を活かして一般企業へ横展開して収益基盤を確立するとともに、将来的には海外での利用を目指し、持続可能な対策エコシステムの構築を目指します。

## 代表者コメント



SEARCHLIGHT株式会社  
代表取締役  
瀬戸 亮

実証期間が短く、機能面でも社会実装面でも非常に難しい状況でしたが、参院選と衆院選という大きいイベントが発生したことにより潜在的ニーズが顕在化し、多くのフィードバックを賜ることで、とても実りのある開発・実証となりました。